Unity Physics Training Introduction to Cryostat

第2版:2021/6/30 *E008222/01*



Objectives

- 1. Unityクライオスタットの設計の 理解
- 2. クライオスタットによる測定上 考慮しなければならない事項の 理解
- 3. クライオスタットに関する治療 計画装置の挙動の理解





Lesson Objectives

- クライオスタットの構造
- Unityクライオスタットの構造





Introduction

Introduction to Cryostat Design

クライオスタットは、液体ヘリウムを使用して極低温を維持し、 磁石に超伝導特性を提供する断熱容器。 超伝導マグネットは、1.5 Tで均一な静磁場(B0)を生成する。

クライオスタット構造内にないコンポーネントには次のものがある

- ・RF送信コイル(B1)は、共振周波数でRFパルスを患者様に送る
- ・ 傾斜磁場コイル (Gx、Gy、Gz)は、 NMR信号の局在化を可能に し画像を生成する











Introduction to Cryostat Design

- 放射線照射システムを実装する際の考慮事項
 - ・ ビームハードニング
 - 磁場の一貫性
 - 放射線ビームの一貫性





Anatomy of the Marlin Cryostat

クライオスタットはアニュラス(Annulus)に よって2つに分割されている

- ・クライオスタットを透過する厚みの最小化
- ・クライオスタットの壁はファラデーケージ
 (磁気シールド)の一部であり、MRによって
 生成されたフィールドがビーム発生機構に
 影響しないようにしている











Anatomy of the Unity Cryostat

アニュラスで接続された分割システム ・ ビームはクライオスタット構造全体を透過しない

• Y方向の22 cmの最大フィールドサイズ





9

Anatomy of the Unity Cryostat

クライオスタットパイプ

- カウチの足側から見たときに右側の垂直から 13.2度に位置
- コイルの2つのセクションをつなぎ、超電導 ケーブルを運ぶ
- パイプの中心からアイソセンターまでの距離は 78 cm
- パイプ半径は2.54 cm





Anatomy of the Unity Cryostat

クライオスタットパイプは不均一で、密度が高い

Unityは、13.2度のガントリ角度だけでなく、パイプ上に 照射されている照射野サイズでは、それ以外の角度でも照射 を行うことはできない

・ パイプから180度のガントリ角度は可能





Summary ~Design and Role of the Cryostat~

Cryostat



クライオスタットには、磁石に超伝導特性を付与 するために使用され、液体ヘリウムが充填されて いる



Annulus

ビームは、クライオスタットのアニュラスを通過 する。 アニュラスは、2つのクライオスタットを接 続する。

Connection Pipe



コイル間をつなぐクライオスタットパイプは13.2 度に位置している

Built-in Interlocks





・不均一性補正・ヘリウム充填率の影響





Variable Isolation

ビームがアニュラスを通過するときに影響する2つの因子

クライオスタットの不均一性
 アニュラス内のヘリウム充填率





Non-uniformity Correction



クライオスタットの構造は完全に均一ではない

- 製造誤差は、減衰の違いをもたらす
- 溶接によって引き起こされる

これらの理由から、クライオスタットの特性評価を行う。 具体的には、Cryostat characterization tool (CCT) を用い、Cryostat Transmissionを測定する。



Non-uniformity Correction

Cryostat Transmissionの測定方法:

1. Posteriorコイル、カウチ、ブリッジを取り外す

2. 電離箱にビルドアップキャップを装着しする

3. MVアイソセンタで電離箱をセットアップする

4. 2度ごとに10cm x 10cmの出力を確認する





Non-uniformity Correction



Cryostat Transmission測定結果:

角度毎のトランスミッションマップを作成し、 Monacoが線量計算で考慮できるようにする



Helium Transmission

アニュラスにより、クライオスタット構造全体に液体 ヘリウムを均一に分布させることができる







Helium Transmission



液体ヘリウムの量は、磁石の傾斜、停電などにより変化する 可能性がある

液体ヘリウムの減衰は透過を0.7~0.9%増加させます
 ガントリ角度に応じて平均出力に影響を与える

注目すべきクライオスタットヘリウム充填率

• 100%

フルで充填されている場合

• 93.2%

アニュラスを完全に覆っている最低レベルのヘリウム充填率

• 66%

エレクタが定める最低限必要な量

G90 / 270のマシン出力をチェックするのに十分なヘリウム充填率

• 40%

G90 / 270で均一なプロファイルをとなるヘリウム充填率

• 30%

MRIを使用するために最低限必要



Cryostat vs Annulus fill level

右のグラフは、クライオスタット充填率に対して非線形 に関連するアニュラスヘリウム充填率を表している

クライオスタットで前述した重要な値は、次のような アニュラス充填に関連している

Cryostat	Annulus
100%	100%
93.2%	100%
66%	66%
40%	34%
30%	11%





Helium Transmission

アニュラスのヘリウム充填率による2つの主要な考慮事項

- 1. 照射中の絶対線量差
- 2. 線量校正時のガントリー角度に依存した違い

調査した2つのケース

同じMUで異なるガントリ角度から照射する5門ビームのアイソセンタでの平均線量を求める
 マルチアングルビームでアイソセンタの平均線量を求める



Helium Transmission



Annulus Fill	Beam 1	Beam 2	Bea	am 3	Beam	4	Beam 5
100%+	100 cGy	100 cGy	100	cGy	100 cG	У	100 cGy
~98%	101 cGy	100 cGy	100	cGy	100 cG	y	100 cGy
~88%	101 cGy	101 cGy	100	cGy	100 cG	У	101 cGy
~66%	101 cGy	101 cGy	100	cGy	100 cG	У	101 cGy
Total	100%+	~98%	%	~8	8%		~66%
Dose	500 cGy	501 cC	Зу	503	cGy	50	03 cGy



Helium Transmission

- 5門での平均線量を使用した調査
 - 様々な線量校正のガントリー角度を検証
 - G90
 - ・G0,G90,G180,G270の平均
 - G0,G180の平均
 - G180
 - G0



Helium Transmission

- マルチガントリーアングルでの平均線量を使用した調査
 - 様々な線量校正のガントリー角度を検証
 - G90
 - G0,G90,G180,G270の平均
 - G0とG180の平均
 - G180
 - G0





Helium Transmission

推奨される線量校正時のガントリー角度:G90またはG270

• 66~100%の充填率で検討

5ビーム平均出力の変化:

- G90でのキャリブレーションでは0.6%
- GOでのキャリブレーションでは0.8%

マルチガントリ角度の平均出力の変化

- G90でのキャリブレーションでは0.4%
- GOでのキャリブレーションでは0.9%

充填率はPhilips MR PCで測定された値





Summary ~Cryostat effects on the MV Beam~

Cryostat Characterization



クライオスタットには、超伝導磁石と、磁石に超 伝導特性を提供するために使用される液体へリウ ムが充填されている

Annulus Helium Fill Level



Unityのビームは、クライオスタットアニュラスを 通過するため、ヘリウムレベルが重要



- クライオスタット 特性評価の適用
- クライオスタットパイプ





Treatment Planning Issues

Application of Cryostat Characterization

TPSモデルはGPUMCD bmtmc jsonファイル内の2つのセクションを 使用して、クライオスタットに基づく補正を適応する

- 物質のリストとそれぞれのサイズ

- 360度のトランスミッションマップ

Name	Date modified	Туре	Size
/ bmtmc	2/3/2020 6:57 PM	JSON File	24 KB



Application of Cryostat Characterization



計算手順の概要:

- 1. クライオスタットの特性評価に基づいた トランスミッション補正マトリックスの 構築
- 2. クライオスタットの「補正シリンダー」 を通る個々の粒子経路を追跡する
- 3. 粒子の重みづけによって24層に補正さ れたクライオスタットシェルを介して モンテカルロ計算を実行する



Pipe Exclusion

- Unityは、線源からのビームの角度投 影を使用して、ガントリ角度の関数 として「保護ゾーン」を決定する
- 最終的な完全除外ゾーンは楕円形に なる





Pipe Exclusion

 Monacoは、「保護」エリアを単一の 円柱モデルとしてモデル化して、回避 ゾーンを提供する





Pipe Exclusion





32

Pipe Exclusion

- パイプは、BEVディスプレイから赤のハッチ ングバーとして表示される
- コンベンショナル照射の際、Monacoは線量 計算を無効にし、エラーの原因となっている ビームを編集するよう警告する





Pipe Exclusion

IMRT最適化中:

- ダイアフラムがクライオスタットパイプを塞ぐ
- ガードリーフも開く





Summary ~Cryostat Model in the TPS~

Virtual Cryostat Model



クライオスタットアニュラスモデルは、24層の シリンダーシェルから構成されている



クライオスタット補正は、仮想シリンダーシェル トランスミッションモデルに基づいた粒子重み付 けを使用して実行される

Pipe Protection



Monacoでは、クライオスタットパイプを通過する ビームを作成することはできない

Beamlet Optimization

GPUMCD Particle Weighting

70	\sim				
j 60	$\backslash $				
Tun 50	$\langle \rangle$				
10 and 10					
20		\setminus			
10		\backslash			
0	10	20	30	40	50
		dia and a second second	la I dagraas		

Monacoは、患者様に達する前にパイプを通過する ビームレットを最適化しない。 パイプはダイヤ フラムを使用してブロックされる。



Thank you

Elekta